

# 藝文だより

第36号

平成31年 3月15日  
村山市芸術文化協議会  
題字/齋藤 湖舟

## 第54回村山市芸術祭シンボル事業

## ブルガリア民族合唱アバガル・カルテット公演



ホールに澄みわたるブルガリアン・ヴォイス

第五十四回村山市芸術祭シンボル事業「ブルガリア民族合唱（ブルガリアン・ヴォイス）アバガル・カルテット公演」が十一月十六日、市民会館大ホールを会場に開催されました。

この公演は、東京オリピック・パラリンピックに向けて実施している、ブルガリア共和国とのホストタウン事業の一環として開催されたもの。アバガル・カルテットはブルガリア出身の女性4名で構成され、ヨーロッパを中心に、世界各国で活躍を続ける注目のコーラスグループです。

第一部はブルガリア民謡を中心に、ラストは「さくら」「ふるさと」を日本語で歌い上げました。中でも「ふるさと」は、村山混声合唱団フェブリエ・村山市女声コーラスとの合唱で披



民族楽器・ガドゥルカと



市民合唱団との大合唱

露され、観客からは大きな拍手が送られました。

第二部では恋愛ソングからコミカルな曲まで幅広い楽曲を披露。合間にはブルガリアの伝統的な弦楽器である「ガドゥルカ」の演奏も織り交ぜながら、日本ではあまり聴くことができないブルガリア音楽で会場を包みました。

最後は客席からのアンコールの後、再度合唱団との共演。ブルガリア童謡の「冬の歌」をブルガリア語で大合唱し、盛大にフィナーレを飾りました。

金曜夜の開催にも拘らず大勢の方々にお越しいただきました。来場した皆さんは、万国共通の言語ともいわれる「芸術」を通じて、村山市とブルガリアが繋がる貴重な時間を満喫していました。

## 稽古の重さ

### 謡曲連盟発表会に思う



村山市芸術文化協議会

会長 軽部 栄子

お能の曲が謡曲だと聞いた事がありますが、その能に接する機会がほとんど無く、知識もありません。お謡いとしてお祝い事の時などに、聞かせてもらう事はあります。

この数年、村山市謡曲連盟の発表の舞台を観せて（聴かせて）いただき、その度毎に奥深い何か、言葉では表しようのないものに魅入っています。

紋付、袴で正装し、姿勢正して、長くむずかしい詩を、朗々と息絶える事なく三十分程も続きます。素晴らしい声と微妙に美しい節まわしです。

これが人の技？とても一朝一夕で出来る事ではない筈です。どれ程の稽古を重ねられた事か思い知る由もありませんが、あの舞台での素晴らしい発表が聴く人の心に深く刻まれた事は確かでしょう。日本の伝統文化という言葉に耳にします

わが村山市芸文協が誇れる、素晴らしい伝統文化であると思えました。

折にふれて思う事は、芸文協、どの団体においても、次に続いてくれる人が少なく、分野においては新しい会員の姿が見えないところもあります。人口の自然減少のかわりもあるかも知れませんが、いろいろな機会です実際に体験していただき、その過程の楽しさ、満足感などを体感していただくことで、芸術文化への理解や関心を高めることができるのではないのかと思います。

この村山市謡曲連盟のように懸命な稽古に裏打ちされた伝統文化を、しっかりと次世代に繋げていくべき責務が、私達にはあるのだと思います。スマホから流れるテンポの早い音楽だけが後の世に残っていつて良い筈など決して無いのですから――。

## 村山市の一大事業

### 浅草寺大わらじ奉納

ふるさとの「融和と団結」に大きく貢献!!

天を衝く「大わらじ」

待ちに待った日……その日は、雲ひとつない爽やかな秋日和に恵まれました。揃いの法被に草鞋（わらじ）掛け、我がふるさと荒町衆の「ワツシヨイ、ワツシヨイ」の掛け声とともに、天を衝くような「大わらじ」が登場。見事に均整のとれた姿は、まさしく芸術品であり神々しく輝いていました。思わず大観衆から感嘆の声……続いて大きな歓声と拍手が沸き上がりました。

理想の「ふるさと」とは？

製作に当たった荒町の皆さんはどんなに苦労されたことか。私はこんな言葉を思い出ると思います。

します。

「理想とする「ふるさと」とは一体どんなまちや村だろうか。」

東北の生んだ宰相、鈴木善幸氏はこう言っています。

「それは、地方都市が程良く栄えて、村はずれの鎮守の森から祭囃子や太鼓の音（ね）が聞こえてくるところ、そしてそこに住む人達がお互いに支えあい助け合って暮らしているところ……それこそ、理想とするふるさとの原風景だ。」

私は、全くその通りだと思っています。そして、荒町の皆さんこそ、それを地で行っていると思えます。

大わらじが繋ぐ「固い絆」

荒町の皆さんは「大わらじを編む」という作業を通し、「人と人との絆」を深めてきました。そして、地域における共同社会を築いてこられたのであります。それは素晴らしいことです。私達の模範であり誇りです。

市民総力をあげて応援

そして、それを市民が総力



を結集し応援しました。それこそ、市民の融和と団結、村山市を元氣な明るいまちにする大きな原動力です。また、我が村山市の名を広く全国に発信するとともに、関東に住む多くの村山市出身者が望郷の念に駆られた時、大きな心の支えになると確信します。

郷土の誇りを、次世代に繋ぐ

私達を取り巻く環境……高齢化が非常に深刻です。お互いに支えあい、助け合わないと生きていけない時代になりました。

そんな時代だからこそ、この素晴らしい「まつり」を絶やすことなく、後世にしっかりと繋いでいかなければならないと思えます。

（村山市大わらじまつり

実行委員長

松舞踊村山塾 田中正信

# 村山三曲協会三十周年記念演奏会

村山三曲協会 川越正信



30年のハーモニ



日本舞踊との共演

平成と共に歩んで来た村山三曲協会も、三十周年の節目となりました。発足に尽力くださった故留場光山初代会長を始め、諸先輩方に背中を押されて今回を迎えた思いです。今公演は、中央から尺八奏者の渡辺紅山先生をゲストに、日本舞踊・抹茶のお手前・童謡との共演を試みました。「プロの尺八の音って奥深くて迫力あっけね。」

「幽玄で余韻の残る演奏だった。」  
「抹茶のお手前と息ぴったり」  
「懐かしい童謡の曲も有ってみんな口ずさんでいだったね。」  
「もつともつと多くの人に聴かせたかったね。」うれしい感想をたくさんいただき、会員一同熱い時間を過ごすことができました。  
これまで続けてこられたのは、邦楽に御理解のある皆様への御支援の賜と、大変感謝しております。  
次回の三十一回演奏会の成功を誓い、終演しました。



秋晴れのもと写生に挑戦

今年度からの新規事業として「全国最上川写生大会」を十月八日に開催しました。この大会は最上川を描くことを通して、絵画への関心と山形への愛着を育むことを目的に市教育委員会が主催したもので、

## 最上川美術館

### 「全国最上川写生大会」

で、第一回となる今回は市内外から五十人近くの参加者が集まりました。当日は絶好の写生日和となり、参加者は最上川美術館の真下清美術館長と審査員長の木原正徳教授（東北芸術工科大学副学長）の挨拶の後、秋晴れの空のもとで美術館のテラスと大淀ビューポイントの二か所に分かれて写生に取り組みました。

小中学生を対象とした大会でしたが、子どもたちに触発された保護者の方や未就学児の子どもたちにも大勢参加いただき、眼下を流れる雄大な最上川を熱心に描いた親子の力作が多く集まりました。絵を描くことを通して、日常では気づかない最上川の魅力を感じる事ができた大会となったのではないのでしょうか。

## 最上徳内記念館

### 「政治家松岡俊三と彫刻家村岡久作展」

平成三十年は十年に一度の浅草寺大わらじ奉納ということで、村山市が全国から注目された年でした。

記念館では今回で八回目となる奉納の記念として、奉納

に大きく関わった二人の偉人を取り上げた「政治家松岡俊三と村岡久作展」を八月十日から十月二十三日までの約二か月間開催しました。

松岡俊三のコーナーには、

護国の大わらじとして奉納された一回目（昭和十六年）の奉納写真のほか、生涯を懸けて訴え続けた雪害に関する資料や遺品等を展示しました。

村岡久作のコーナーには、久作と戦後再建した浅草寺宝蔵門に安置された仁王像の写真、製作した仁王像が縁で実施された二回目（昭和三十九年）の奉納写真や仁王像（昨形の像）のレプリカ等を展示



ゆかりの品が並んだ記念展

しました。二人の功績は大わらじの奉納とともに、荒町地区民、村山市民の心に残ることでしょう。

# 第54回村山市芸術祭

第五十四回村山市芸術祭は、十月二十八日の「村山吟友会吟詠大会」「津軽三味線・民謡・舞踊フェスティバル」を皮切りに、十一月八日の「SKIPスパーライブ」までの約一か月半、村山市民会館を主会場に開催されました。趣向をこらしたステージや展示に訪れたお客様は、思い思いに芸術の秋を満喫していました。



聴衆を魅了したフェブリエ「プロムナード・コンサート」



ハーモニーが響いた北村山吹奏楽団「秋のコンサート」



立派な枝ぶりを披露したさつき盆栽展



凜とした歌声が響いた吟詠大会



大作が出品された芸術祭美術展



感動を呼んだ赤ひげ「夏空の光」公演



美しい音色を披露した大正琴演奏会



労作が並んだ人形・押絵展



秀逸な作品が展示された書道展



幽玄の世界 謡曲公演



温かい作品が並んだ手芸作品展



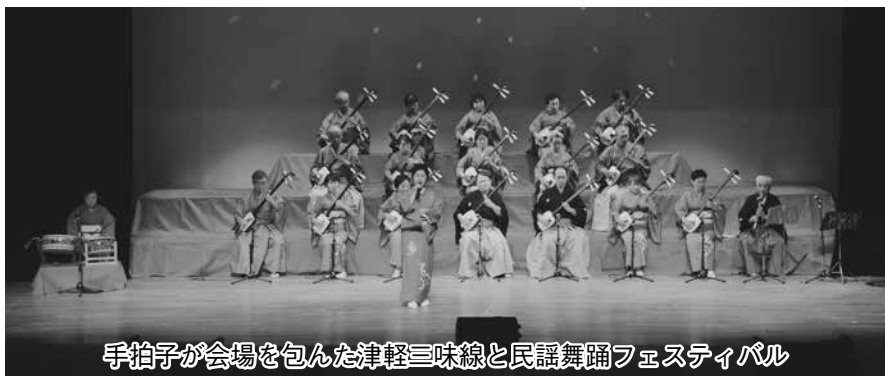
甘い香りに包まれた五流派合同のいけばな展



厚岸との合同写真展



繊細な作品が並んだ暮点焼陶芸教室作品展示会



手拍子が会場を包んだ津軽三味線と民謡舞踊フェスティバル



親父パワー全開! SKIPスーパーライブ



眠わった芸術祭お茶会

# 色紙は小宇宙

村山市書道会 青柳 春城

今年から書の色紙展を一部変更して開催しております。

これまででは、子どもの色紙展を五年毎開いておりましたが、前回好評を博しましたので、毎年開催することになりました。

書の色紙展は四十一回目に なります。村山市長、村山市 議会議長、地元県議会議員の 方々より特別に出品いただき 華を添えてもらっております。 子どもの作品も大人の作品も 各流派等を踏襲しながら独自 の工夫を凝らした創造に富む 作品が並び、ご覧になってい る皆様からは、熱のこもった 批評が繰り広げられておりま した。

子どもの色紙展は、各書道 教室が中心となって出品いた だいております。市販の色紙 で勿論OKですが、多くは半 紙を色紙の大きさに切って作 成しております。

色紙（縦二十七cm横二十四 cm）の中に小宇宙を感じなが らの作品作りは楽しいもので す。字の上手下手は別にして、 思いがけないものが現れたり もします。（題材は墨で書い た文字が中心）



個性の光る書の色紙展

村山市書道会では、六月の 東沢公園内にある筆塚前で行 なわれる筆供養（バラ祭り開 催中）と十一月頃の書道展、 色紙展が主な事業です。

出品作品は、額装が基本で す。表具店経由の必要のない 色紙額からは非挑戦してみ て はいかがでしょう。額に入 れてみると見違えるようにな ります。

書を始めたい方、興味のある方、色紙展等へ出展したい方は最寄りの会員や、各書道教室の先生方に気兼ねなく声をお掛けください。

# 大空高く聳える大樹を目指して

松舞踊村山塾 田中正信



歓声が溢れた股旅舞踊

月日の経つのは早いものです。 当会が発足したのは、二十年 前です。

宮城県松流・松舞踊宗師松 としはる先生、同家元松ゆう か先生より指導いただき稽古 を重ねて参りました。

今回の芸術祭では「松舞踊村 山塾発表会チャリティー ショー」を開催。

昔懐かしい義理と人情の世 界、そして粋な大衆演芸を演 じました。

会場は、踊り手と観客の息

# 大切な仲間との時間

村山市女声コーラス 黒沼 由紀子

「こんにちは」

毎週月曜日の夜、練習会場 の市民会館大会議室は、賑や かになります。忙しい夕方の 時間をやりくりして、練習が 始まる前にはほとんどの人が 集まります。練習時間は一時 間ですが、いろいろな事を忘れ、 充実した楽しい時間です。

私達は、毎年、県女声コーラス大会に参加しています。二曲だけですが、暗譜して歌っています。コンクールではないので、他の合唱団のコーラスを聴くこ

とはもちろんですが、今年はどうな衣装なのかと見ることも楽しみます。県女声コーラス大会は、山形テルサと他の四つの地域の会場を交互に開催しています。その年の実行委員の方達が、本番だけでなく細かい所まで気遣いして下さり、

私達は、毎年、県女声コーラス大会に参加しています。二曲だけですが、暗譜して歌っています。コンクールではないので、他の合唱団のコーラスを聴くこ



仲間たちと歌声を奏でて

私達は気持ち良く歌う事ができます。皆さん本当にコーラスが好きなんだなあと思う二日です。

私達の仲間になって、一緒に歌ってみませんか。

がピツタリ…すごい熱気と興奮に包まれ、大いに盛り上がります。大成功だったと思えます。なお、福祉活動の一環としてこれまで同様、市社会福祉協議会に寄付をさせていただきます。

先述の通り、村山の地に、股旅、という小さな一粒の種を蒔いたのは、松岡先生です。

そして、皆様の温かいご支援のお陰で、その小さな一粒の種が芽を出し、葉を茂らせました。これからは、大空高く聳える大樹に成長するよう一層研鑽・努力したいと思えます。

## 時の流れに思う

日本舞踊若三三会 小林 久美子

私が、初めてこの舞台に立った頃は、男性を含み大人から子供まで三十名程で演目も三十以上あり、楽屋も舞台も客席もにぎやかでした。

でも、今年度の公演会は、出演者八名、演目十四でした。そんな中でも観に来て下さった方々には「よかったよ」と言ってもらえ、うれしく思っています。また、大人の中にただ一人、四才の女の子がかわいらしく踊ってくれてたくさん拍手を頂きました。こんな

な子が増えてくれればうれしいのですが……。

近年、日舞を習う人が少なくなっているのは他の教室でも共通の悩みだと聞いています。中には興味があっても堅苦しく難しいと感じてる方もいらっしやると思います。確かに私達は古典物を大切に踊っていますが、演歌や歌謡曲などにも振付をして踊っています。一人でも多くの方にもっと気楽に踊りを始めてもらいたいと思っています。



優美高妙な舞を披露

## 高齢にもめげずに

村山エッセイクラブ 齋藤 美代三

平成三十年は、災害の多い年であった。自然災害ばかりでなく、人災もいくつか含まれていたようにも思う。平成三十年を表わす漢字一字が「災」であった。

幸にも、エッセイクラブには、そうした災もなく運営出来たように思う。ただ残念なことは、会員の高齢や病气等で例会参加者が減って来たことである。



新年会のメンバー

例会は、岡地域市民センターの一室を借りて、各自作品を持ち寄り朗読し、合評会を行っている。この方法は、草創期以来踏襲されてきたことである。例会の外に新年会や研修旅行なども行っているが、研修旅行は何年ぶりの実施であった。参加者は多くはなかったが、有意義に終えることが出来たと思っている。

秋田仙北にある「わらび座劇場」での『北前・ザンブリコ』というミュージカル劇である。貧しい身分から、北前船で富を築いた弥三郎が、命がけの航海の中で愛と生命を大事にしなごら、人のために尽すという内容である。感動的なシーンに涙してきた。バスの中の会話により、一層交友の絆を強められたことが大きな収穫であったと考えている。

活動全体の中で、会員が最も力を入れていることは、年一回発行の同人誌「雑木林」の刊行である。愛読されている方々の評判の良いたが、救いになって活動が続けられていると思っている。この会が愛読者に誇れることは、なんといいながらも、「足こしが不自由」になりながらも、杖を頼りに、皆出席して例会を続けていることであろうと思う。若い方々の入会を心待ちにしているところである。今後とも一層の御支援と御指導を賜りたく会員一同願っているとある。

## 芸術文化功労者を表彰



村山市芸術祭開幕式の席上、平成30年度芸術文化功労者が表彰されました。誠にありがとうございます。(10月26日市民会館)

### 【功労章】

小松千恵子(袖崎・茶道連盟)

### 【栄光章】

下山ヒサ子(楯岡・正徳会) 高年部優勝  
 村山市立楯岡中学校吹奏楽部  
 全日本アンサンブルコンテスト山形県大会 金管五重奏 金賞  
 全日本吹奏楽コンクール山形県大会 金賞  
 金澤 求美(楯岡・書道会)  
 第43回山形県総合書道展 山形県議会議長賞  
 大場ひろみ(楯岡・俳句) 大賞  
 第24回俳句大賞

### 【感謝状】

中山 治子(楯岡・社会音楽連盟)  
 中山 時江(楯岡・正徳会)  
 斎藤 光子(楯岡・正徳会)  
 五十嵐 祐子(大高根・劇団赤ひげ)  
 井澤 和子(戸沢・大正琴連盟)  
 村山市謡曲連盟  
 村山三曲協会  
 阿相 金彌(楯岡・昔語りの会)

# 下山ヒサ子さん 県民謡王座決定大会高年部で優勝

第六十回県民謡王座決定大会の高年部で、下山ヒサ子さん（楯岡）が見事優勝されました。県民謡王座決定大会は中学生以下の少年少女、一般、七十歳以上の高年の三部門に一四〇人以上が出場する県内最大規模の大会です。

母方の叔父の影響で、幼少期から民謡が大好きだった下山さんですが、お仕事等でなかなか民謡に打ち込めない時期が続いたとか。そんな中、平成九年の正徳会十周年記念発表会で感銘を受け、正徳会への入会を決意。民謡の基本だけでなく軽い気持ちで入会してから、気が付けば今年で二十年目を迎えるとのことでした。

これまで五つのトロフィーと十枚以上の賞状・表彰状を



獲得しましたが、「全ては先生のご指導と仲間たちの温かい声援、家族の理解と協力のお蔭です」と語る下山さん。

民謡の最北地区大会では平成二十三年から七回連続で入賞、芸術祭にバラまつりにと精力的な活動を続ける下山さんの更なる活躍に注目です。

# 注目！ 画家 狩野 宏明 さん

昨年夏、企画展示室の壁面一杯に、若手作家・狩野宏明展 SCAPFOLDINGを開催いたしました。

繊細で大胆な迫力ある作品の数々を拝見いたしました。生まれ故郷の山形では初の個展開催ということで多くの方にご来場いただき、ギャラリートークにコンサート・ワークシヨップと、とても盛んな展覧会となりました。その後も、東北芸術工科大学とのコラボ展覧会、東京での展覧会と大活躍されています。これから更に、世界に羽ばたくことでしょう。



現在は奈良教育大学で教鞭をとっていらっしゃいますが、ご実家は村山市富並にごいます。

美術館としましては、今後のご縁を心強く期待いたします。

（最上川美術館館長 真下清美）



プロフィール  
酒田市生まれ 山形市育ち。  
筑波大学大学院人間総合学科科学研究科博士課程修了。その後二年間、文化庁新進芸術家海外研修制度によりイタリヤ・フィレンツェに滞在。現在、奈良教育大学美術教育講座准教授。

## 平成三十年度 村山市芸文協のつぎ

2	1	12	12	11	11	10	10	9	8	7	7	7	5	4	4	4
15	17	26	21	25	16	26	17	4	11	26	25	22	17	23	18	19
三役幹事会	芸文だより編集委員会	北村山芸文協懇談会 (東根市)	市芸術祭反省会	サート28th(後援)	三役幹事会・理事会	公演	プロムナード・コンサート	三役幹事会	三役幹事会・芸術文化功労者選考委員会	山巡回展	山公演(後援)	三役幹事会・理事会	三役幹事会	三役幹事会	三役幹事会	三役幹事会

## あとがき

平成最後の『芸文だより』を発刊することが出来ました。出来映えはいかがでしょうか？

発刊に関わられた皆様には、大変なご協力をいただき誠にありがとうございました。

雪が消えますと間もなく、新しい元号の下、新時代が始まります。新しい時代は、災害の少ない、平成に引き続き平和が続きますよう心から祈ると共に、皆様におかれましては、これまで以上に充実した日々を送られることを願っております。

(編集委員長 青柳 孝雄)

### 芸文だより編集委員

- 青柳 孝雄 (村山市書道会)
- 黒沼 由紀子 (村山市社会音楽連盟)
- 小林 久美子 (日本舞踊若三三会)
- 齋藤 美代三 (村山エッセイクラブ)
- 田中正信 (松舞踊村山塾)
- 堀 澄雄 (村山フォトクラブ)